

横浜こぶしの会 剣岳・五色ヶ原 山行報告書 2016年8月16日提出 (提出者:H)

山名・山域	北アルプス北部 (剣岳・立山連峰)
山行目的	夏の剣と五色ヶ原を楽しむ
山行期間	2016年8月9日～13日
参加者	2名

ルート、コースタイム

09日 1800 横浜発—2300 道の駅「松川」

10日 0445 松川—0530 扇沢—0910 室堂—1155 剣御前—1310 剣沢野営場

11日 0500 剣沢—0530 剣山荘—0640 前剣—0815 剣本峰—1045 一服剣—1100 剣山荘—1230 剣沢野営場

12日 0600 剣沢—0710 別山—真砂岳—大汝山・雄山—1100 竜王岳・鬼岳・獅子岳—ガラ峠—1450 五色ヶ原

13日 0610 五色ヶ原野営場—0835 平の小屋—1235 ロッジくろよん—1300 黒部ダム堰堤—1400 扇沢—横浜

山行記録 (記録性を重視し、天候、コースの状況・特徴、注意点、必要になった用具など)

【剣沢野営場】

古き良き時代の野営場の雰囲気維持する貴重な野営場だ。管理事務所は余計な能書を言わず全て自己責任としている。富山県警の常駐隊も心強い。水場では豊富な水がジャンジャン流れている。トイレはバケツ式と旧型と二棟あり不便はない。新剣沢小屋がかなり下方に建て替えられており買い物 (ビール 500=800 円) には不便だ。

【剣本峰】

剣山荘から別山尾根コースが始まる。一服剣から見る前剣は「どこをどう登るの」と絶望感さえ感じさせるが、実際取付いてみると、実はそれほどでもない。急登ではあるが上手に登山道が切られており危険はない。

前剣から先が核心部となる。岩稜歩きと岩登りが主体で岩は3級から4級程度。ボルトと鎖がしっかり設置されておりボルトも豊富で慎重に行けば問題ない。高度感ある橋やスラブのトラバースも慌てず歩きたい。平蔵の頭へは最初のボルトへの一步を左足で乗り、次に右足を大きく伸ばせば楽に行ける。平蔵のコルから下ると「カニのケバイ」に行きつく。3級の岩場だが「いろいろなカニ」が生息しており渋滞する。

岩場を越えると早月尾根分岐に着く。頂上へは岩稜歩きをもうひと頑張りだ。祠のある頂上からは富山平野から能登半島まで一望の下に眺められ、後立山の秀峰も眼前だ。登り切った満足感と一級品の展望は何物にもかえ難い。去りがたいのか結構長居する人が多い。

下山は「カニのケバイ」に行く。最初の一步 (右足を棚に降ろし左足を伸ばす) さえクリアすれば問題ない。

平蔵のコルからは登り降りが一方通行となる。その先一方通行が交差した処が二か所あり、登りの際注意したい。下りは前剣頂上を通らず下山するのでひたすら下る印象だ。ガラガラガラの滑りやすい下降路を慎重に歩き剣山荘に着くと誰しもがホッとして満足感と共に良い顔になる。

【剣沢から五色ヶ原】

剣沢から別山へ直登し縦走が始まる。真砂岳、富士の折立、大汝山、雄山と歩き、一ノ越に降り着く。危険な処はないが雄山は休日の「高尾山モード」で観光客やハイカーでごった返している。一ノ越への下りは通勤ラッシュを逆行く感じで難渋する。

一ノ越から竜王岳への登りになると「重荷」が肩にズッシリとくるようになり、一步一步喘ぎながら歩く。まだまだ先は長い。竜王岳、鬼岳、獅子岳とその都度登下降を繰り返す。途中雷鳥が登山道を先導してくれ感謝する。最後はガラ峠へ400m下降し200m登り返す。いい加減イヤになったところでヒョイと木道が現れ五色ヶ原の一端に登りつく。木道を行き、交差を左にとると五色ヶ原の野営場に着く。真夏の9時間の長丁場お疲れ様。

【五色ヶ原野営場】

水場の水量（沢水）は今年の寡雪の影響で勢いが無い。秋に向け今後水量確保が心配とのこと（五色ヶ原山荘）。トイは旧式も清潔で臭いはしない。さすがにこれだけの山奥になると「普通の人」はいない。「裏銀座、水晶を越え、赤牛から読売新道を下って奥黒部経由、平の渡しから登り返してきた これから・・・へ行く」等と恐ろしいことを平気で言う人がゴロゴロ居る。北アルプスの奥の奥で満点の星を見る。相方が花に詳しく「シーズンに当たれば見事なお花畑が期待できる」とのこと。

【五色ヶ原から黒部ダム】

最終日は3時間下降し平の小屋を目指す。終始「中の谷やスイ谷」の沢音に励まされ快適な下りとなる。平の小屋近くは登山道の崩壊が何か所もあり慎重に行きたい。仕事道や釣師の釣り場への下降路が交差し注意が必要だ。平の小屋からは関西電力の径路に行く。案内板には「黒部湖周遊道路」とあり何となく優しさを感じるが、一方で関電曰く「危険で責任がもてない通行禁止」と警告を掲示している。これを世間では「支離滅裂」と言う。沢山の沢が流入する黒部ダムには沢が形成する小さな入江と半島が多数存在する。半島の都度高巻きをして入江奥の沢床に降りまた次の半島に向かうという単純活動を4時間繰り返してやっと「ロッジくろよん」にたどり着く。安心地帯に着いた安堵感と楽しい山旅のフィナーレを迎えた寂しさとが交差する。重荷を担いで黙々と歩いてくれた相方に感謝。

【山行を終えて】

夏を迎えると「山男、山女」の誰しものが「以前行ったあの夏の山々を思い、もう一度抱かれて（いだかれて）心身共に何かを取り戻したい」という体の奥からの欲求に駆られる（はずだ）。

今回の山行で、北アルプスの山々の連なりを見るにつけ「自分の頭にある思い出の距離感とスケール感」が何と小さく、目前に実際に展開するパノラマのスケール感が何と大きく雄大であるか、その差を痛切に認識した。

「これだ この感じを忘れずに」⇒「2016の夏、今頭に残っているスケール感が小さくなり、実際のパノラマと差がでる前に」⇒「また山に戻ってくる」⇒下山して「洗濯物が乾くと」もう次を考えている。

以上





